

令和4年度 事業計画・収支予算

血液事業特別会計



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 令和3年度 主な取り組みと今後の課題

(「日本赤十字社長期ビジョン」に基づく戦略項目の取り組み)

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
新型コロナウイルス感染症への対応	<ul style="list-style-type: none"> 必要血液量の安定確保 血液製剤の安定供給 献血者や職員の感染防止対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 企業からの献血協力方法の見直し 広域的な献血者確保体制の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい生活様式」の定着に伴う社会構造の変化を踏まえた新たな献血確保進体制の確立
血液製剤の安全性・品質向上に向けた弛まぬ努力	<ul style="list-style-type: none"> 輸血副作用の発生数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 細菌スクリーニングにかかる手順の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 細菌感染リスク低減策の更なる検討 PAS血小板製剤の開発
献血協力者への新たなアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 献血者が医療に貢献できていることを実感できている仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 献血予約率の向上 認定インタビュアー制度導入施設の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 献血の意義と社会への貢献が実感できる広報展開 献血者のカテゴリに合わせた協力依頼方法の確立
新たな事業展開と持続可能な事業基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> 既存事業を補完できる新たな事業の展開 医療機関での血液製剤の使用状況に応じた献血依頼・献血受入が可能な体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 献血者情報をビッグデータとして研究目的に利用する体制の整備 新しい血液製剤Web発注システムの推進 	<ul style="list-style-type: none"> バイオリソース、ビッグデータの活用を通じた国民の健康増進への貢献 輸送体制の合理化と利活用
造血幹細胞事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 造血幹細胞移植を希望される方の移植率の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 日赤4バンクの公開臍帯血の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の一層の普及推進
各国の血液事業の発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 日本赤十字社の支援によって達成できている活動内容・成果の国内外への明示 各国の技術レベルを超えた交流支援の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の血液事業や安全対策等にかかる情報媒体の公表 	<ul style="list-style-type: none"> 発展途上国に対する技術支援研修の実施及び体制の確立 ニーズを反映した海外研修生の受入

2. 令和4年度事業計画の主な取り組み

(1) ポストコロナに適応した必要血液量の安定確保と 広域事業運営体制の強化

- 事業環境の変化を踏まえた献血推進方策の確立
- 都道府県の枠組みを超えた広域的な献血確保体制の推進
- 献血予約の一層の推進
- 原料血漿確保対策

(2) 将来の献血基盤の構築

- 献血未経験者を含めた若年層への積極的な働きかけ

(3) 供給部門における体制・業務の見直し

- 新たな血液製剤発注システムの利用促進
- 血液製剤の定時配送体制の確立

(4) 血液製剤の安全対策の実施

- 血小板製剤の安全性の向上に向けた対応

(5) 造血幹細胞事業の推進

- 公開臍帯血数の増加に向けた臍帯血の調製保存技術の向上

(6) 国際協力・海外交流の実施

- 海外協力関係の継続に向けた各国の現状に関する情報の収集

(7) 新たな事業の展開

- 国民の健康増進に向けた献血血液に関する情報の公開

(8) 事業の効率的運営の推進

- 業務のあり方の抜本的な見直し
- 次期基幹システムの導入準備

3. 令和4年度事業計画のハイライト

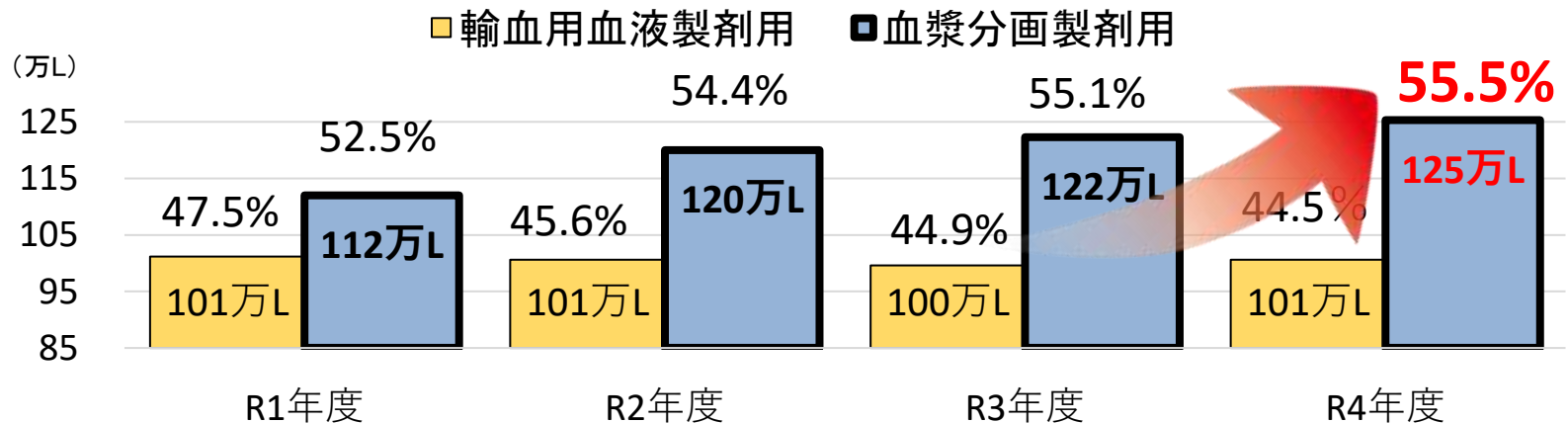
- (1) ポストコロナに適応した必要血液量の安定確保
と広域事業運営体制の強化
- (2) 将来の献血基盤の構築
- (3) 供給部門における体制・業務の見直し
- (4) 事業の効率的運営の推進

(1) ポストコロナに適応した必要血液量の安定確保と 広域事業運営体制の強化

ア 背景・目的

- 「新しい生活様式」の定着による事業環境の変化
(在宅勤務やオンライン授業の定着による企業・団体献血の変容)
- 血漿分画製剤の需要増加に伴う必要血液量の増加
(免疫グロブリン製剤の需要増加)
- 更なる新興感染症への対応の必要性

【献血血液の確保計画量の推移】



医療需要に応じた必要血液量を確保するために、年間505万人の献血協力が必要

医療機関 (必要本数見込み) 計 1,722万本



赤血球製剤 640万本



血漿製剤 213万本



血小板製剤 869万本

※本数は200mL献血から得られる量に換算した本数

製薬メーカー



(原料血漿必要量) 122万リットル



※ 数値については四捨五入していることから、合計と内訳の計は必ずしも一致しないこと。

イ 施策の概要

(ア) 事業環境の変化を踏まえた献血推進方策の確立

- ・ 在宅勤務やオンライン授業を前提とした献血受入計画の策定
- ・ 都市部における献血ルームを中心とした献血受入体制の充実

☑ 献血者の居住地周辺の献血会場への誘導



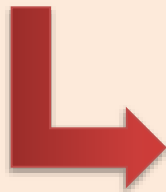
献血バス



中止会場の献血予定者や、
在宅勤務中の献血者を中心に
誘導



献血ルーム



在宅勤務中でも参加し
やすい、地域に根差し
た献血会場の実施



地域密着型の献血実施

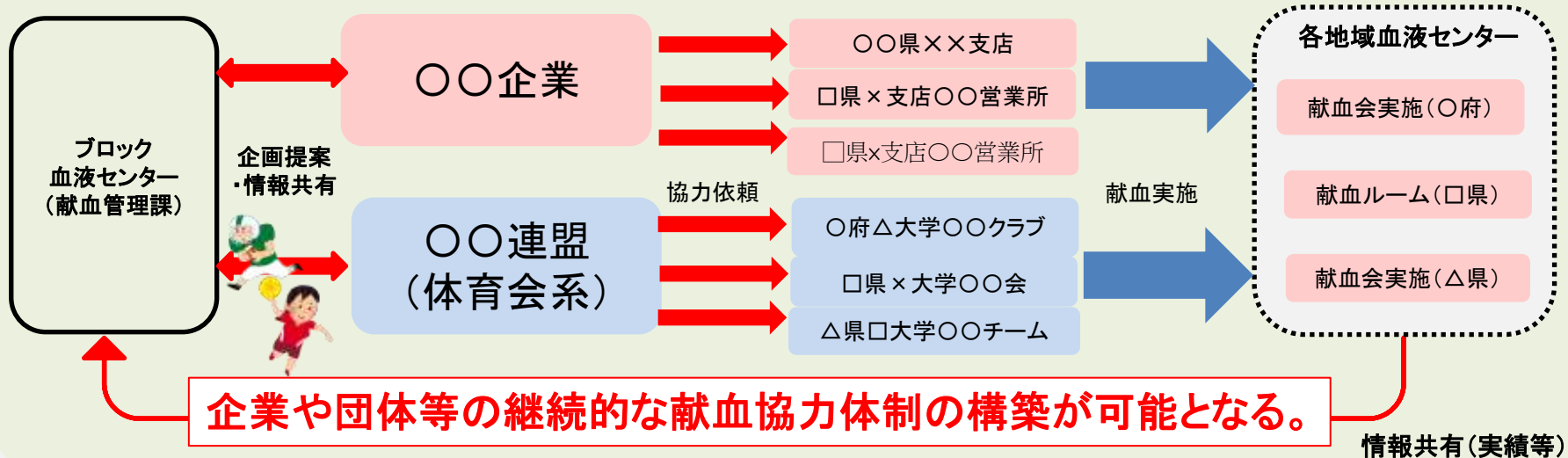
パートナーシップ推進部と連携し、
UR都市機構、URコミュニティ(東京
南住まいセンター)にご協力いただい
た献血実施
(品川八潮パークタウン潮路南第一
ハイツ)

(イ) 広域事業運営体制の強化

- ・ ブロック血液センターと管内地域血液センターの連携強化
- ・ 都道府県の枠組みを超えた広域的な献血確保体制の推進

☑ 都道府県の枠組みを超えた広域的な献血確保体制

ブロック血液センターによる大手企業や大学運動系クラブ活動の組織団体に働きかけ、ブロック単位とする新たな管理体制を構築し、企業の支店や大学のクラブ単位による継続的な献血協力の実施。



(ウ) 献血予約制の推進

- 献血WEB会員サービス「ラブラッド」の活用
- 献血者の属性（性別、年齢、協力頻度等）に応じた協力依頼方法の確立

【ラブラッドの画面】

【献血の事前予約率】



	令和3年度 (目標)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (目標)
全血献血	33.6%	28.7%	59.0%
血漿成分献血	80.0%	76.2%	90.0%
血小板成分献血	90.0%	81.8%	95.0%
全献血者に占める 予約献血者の 割合	50.0%	45.0%	70.0%

⇒全献血者に占める予約献血者の割合を70%に向上させ、予約制の定着を目指す

(エ) 原料血漿確保専用採血固定施設(献血ルーム)の設置

- 血漿分画製剤(免疫グロブリン)の需要増加への対策として血漿採血専用の採血固定施設(献血ルーム)を新設
- 予約専用による献血受入れなど、新たなコンセプトにより運用する



採血固定施設(献血ルーム)のイメージ
(東京都新宿東口献血ルーム)

ウ 期待される成果

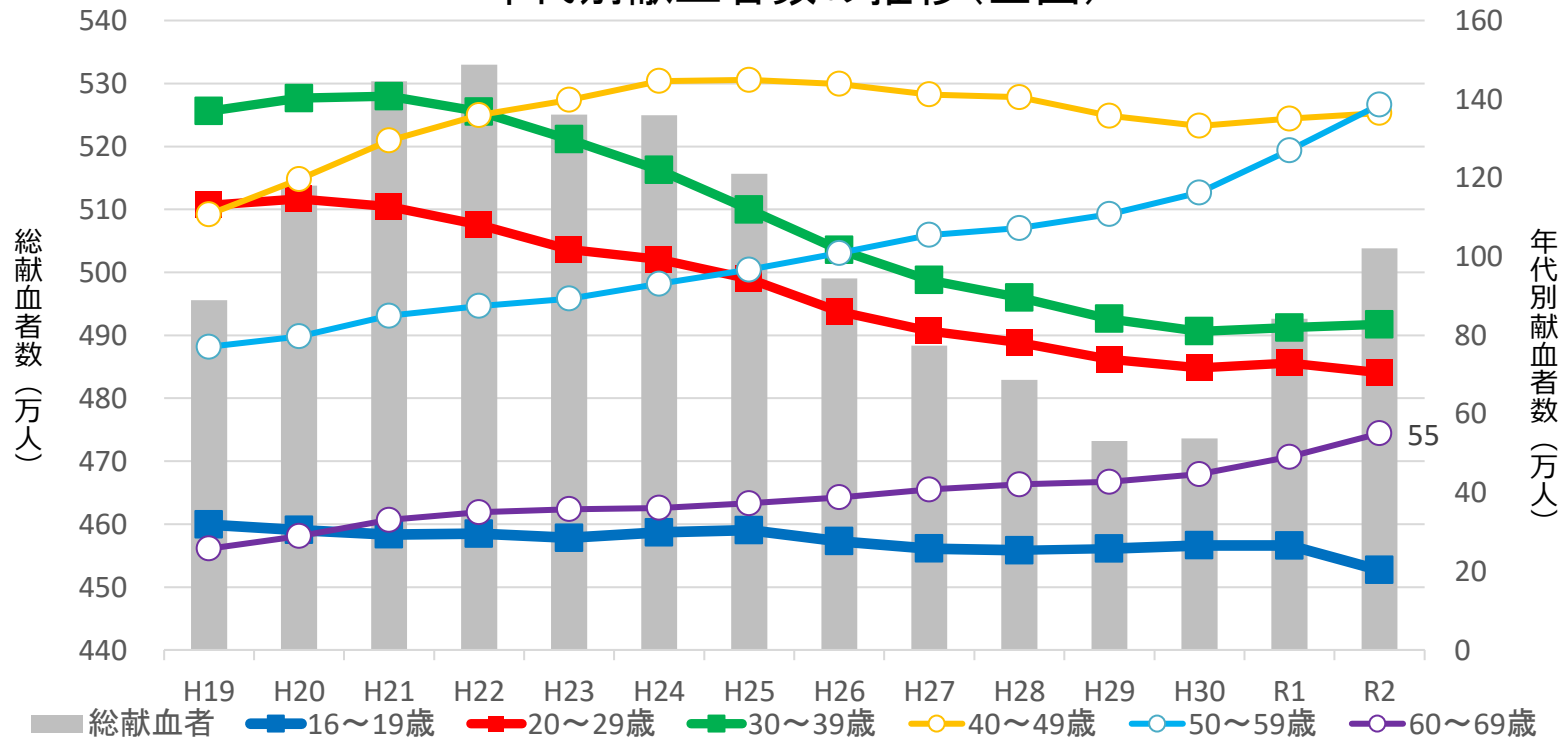
- 事業環境の変化に対応した事業運営体制の確立
- 必要血液量の安定的、効率的、計画的な確保
- 献血の社会的重要性の認知度の向上

(2) 将来の献血基盤の構築

ア 背景・目的

- 少子高齢化の進行に伴う若年層献血者の減少
- 新しい生活様式に対応した若年層への働きかけ

年代別献血者数の推移(全国)



イ 施策の概要

(ア) 若年層を中心とした献血の普及・啓発

- ・献血推進プロジェクト「いこう！献血」の展開
- ・「はたちの献血」キャンペーンの実施(1月、2月)
- ・オンライン授業の定着を踏まえた新規献血者の獲得策の強化



⇒ 将来の献血基盤となる10代、20代の献血者数の増加を目指す

(イ) 献血セミナーの実施

- ・ 中学校や高等学校等において実施している献血セミナーの検証を行い、献血セミナーの質的向上と実施回数の増加に努める



(ウ) 献血未経験者への情報発信

- ・ 献血Web会員サービス「ラブラッド」においては、献血可能年齢未満や献血未経験の若年層を主な対象としたスマートフォンアプリによる新会員サービス「プレ会員(仮称)」の募集を開始
- ・ 献血セミナーで関心を持った献血未経験者に対する情報の発信を強化

ホームページ、SNS、
献血セミナー等

ラブラッド“プレ”会員

ラブラッド会員

献血の認知度向上や
情報発信を目的として
開催。

ラブラッドプレ会員登録を推進。



初回献血推進を目的として
サービス提供。

- ・献血の知識習得
- ・情報発信
- ・イベント/ボランティア応募
- ・初回献血予約

複数回献血、予約献血の
推進を目的としてサービス
提供。

- ・献血予約
- ・事前Web問診
- ・検査結果閲覧
- ・情報発信
- ・イベント/ボランティア応募

ウ 期待される成果

- 将来の献血基盤となる若年層献血者の増加
- 献血未経験者への働きかけによる献血基盤の拡大



(3) 供給部門における体制・業務の見直し

ア 背景・目的

■血液製剤の供給体制の合理化を通じた事業の効率化

【医療機関への血液製剤の供給の流れ】

医療機関からの製剤受注



対象製剤の出庫



医療機関への配送



イ 施策の概要

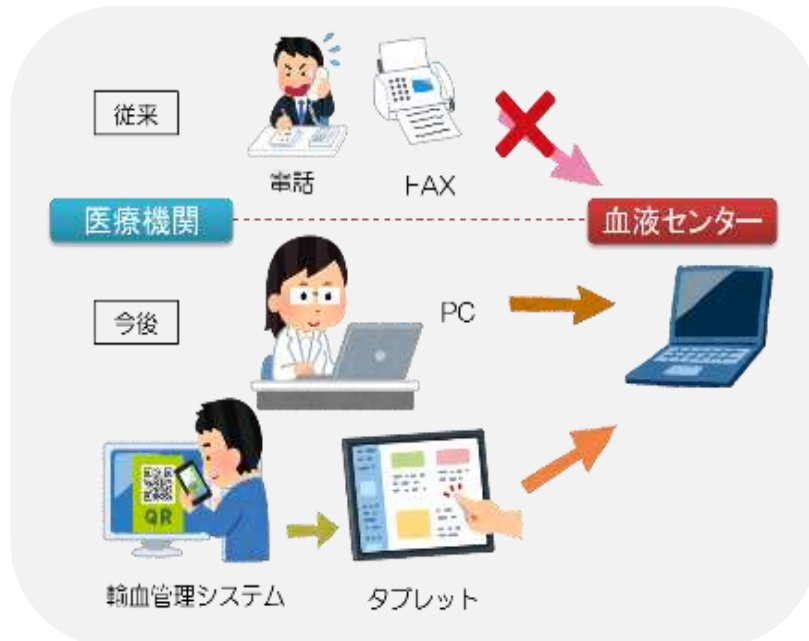
(ア) 血液製剤の受注業務の過誤の防止と効率化

- ・ 医療機関へのWEB発注システムの利用を促進
- ・ Web発注システムを中心とした業務体制への転換

【WEB発注比率】

	令和3年度 見込み	令和4年度 目標
発注システムによるweb発注比率	70%	80%
電話・FAXによる発注比率	30%	20%

※2025年度中に日中帯のWeb発注率100%を目指すための目標設定としている。





(イ) 血液製剤の定時配送体制の確立

- ・輸血医療の実態を踏まえた配送体制への見直し
- ・医療機関に対する定時配送への協力依頼
 (緊急を要しない配送依頼の定時配送化の促進)

【形態別の配送割合】

形態	定義	令和3年度における割合(見込み)
定時配送	定時出発の配送便による計画的な配送	80%
随時配送	定時配送以外の不定期な配送	17%
緊急配送	医療機関からの緊急配送の要請に基づく配送	3%

今後は、地域性を考慮しブロックでの管理を行い、医療機関や行政と協力しながら適正な供給体制の構築を進めることとする。

ウ 期待される成果

- 血液製剤の受注業務の過誤の防止と効率化
- 計画的な定時配送の増加による配送体制の効率化

(4) 事業の効率的運営の推進

ア 背景・目的

- 事業の効率化及び働き方改革を見据えた業務の見直しを実現するための基幹システムの刷新(令和8年度本稼働予定)

イ 施策の概要

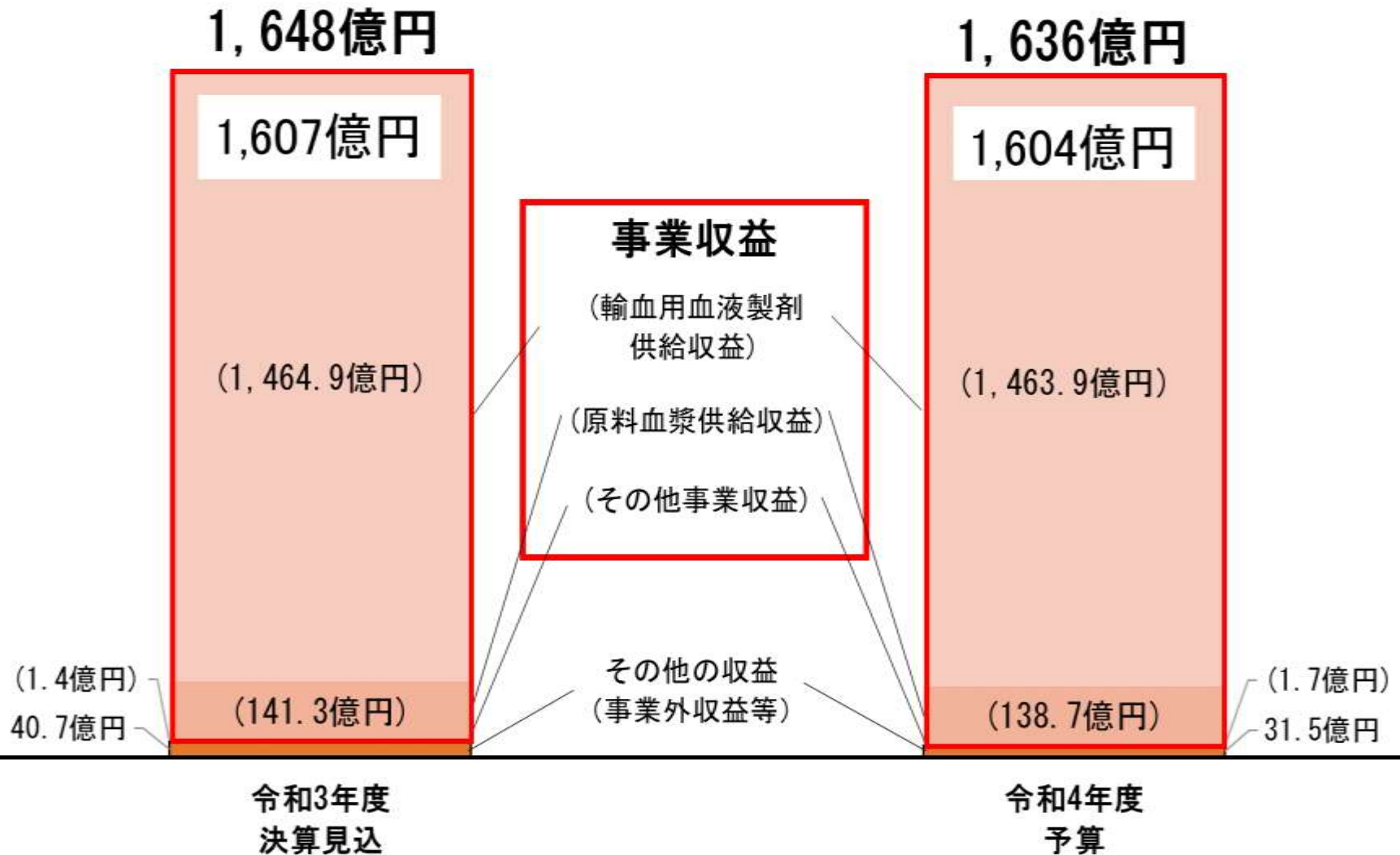
- (ア) 令和3年度まで検討した業務の見直しを踏まえた次期基幹システム設計の開始
- (イ) 次期基幹システム開発、及びデジタルトランスフォーメーション(DX)に対応した事業運営のための体制の整備

ウ 期待される成果

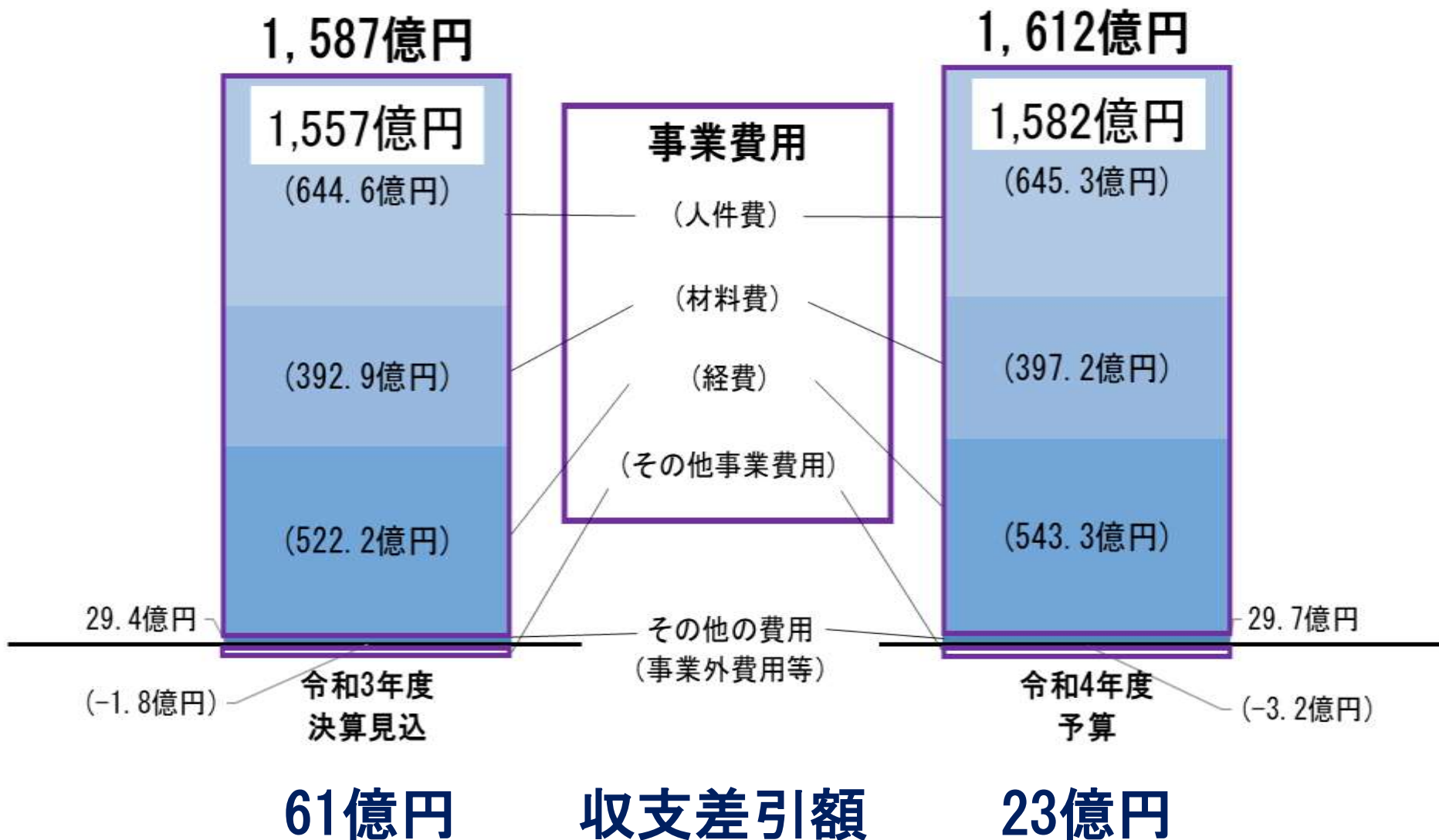
- ペーパーレスや業務の自動化等により、人による業務の削減と過誤防止
- 業務データの分析・活用による更なる業務の標準化と効率化の実現

ハイライト	課題と今後の方向性	令和4年度の具体的到達点
<p>(1)ポストコロナに適応した必要血液量の安定確保と広域事業運営体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き必要血液量を確保するため、「新しい生活様式」の定着による事業環境の変化に対応した事業運営体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 225.9万ℓの血液を、安定的、効率的、計画的に確保する。また、事前予約率70.0%を達成する。
<p>(2)将来の献血基盤の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 将来の献血基盤を強化するため、若年層を中心とした献血の普及・啓発、献血未経験者への情報発信等を行い、若年層の献血者数を増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 若年層へのアプローチにより、献血者における若年層(10～30代)の割合が39.5%にする。
<p>(3)供給部門における体制・業務の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> 血液製剤の供給体制の合理化を通じた事業の効率化を図るため、血液製剤の受注業務の効率化及び定時配送体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ発注率80%を達成する。また、定時配送率は80%を維持しながら、地域性を考慮した適正な供給体制を目指す。
<p>(4)事業の効率的運営の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率化及び働き方改革を見据えた業務の見直しを実現するための基幹システムを刷新する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度稼働予定の次期基幹システムの設計が開始する。

4 .血液事業特別会計収支予算のあらまし(収益的収入)

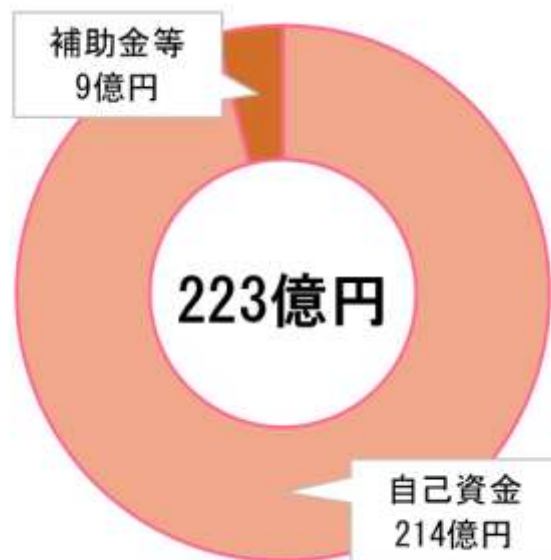


5. 血液事業特別会計収支予算のあらまし(収益的支出)

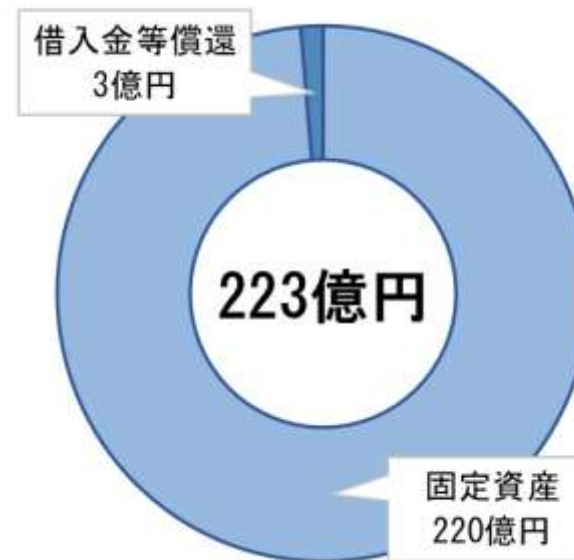


6 .血液事業特別会計収支予算のあらまし(資本的収支)

【収入】



【支出】



固定資産内容	金額
血液センター等の施設整備・改修	104億円
成分採血装置、全血採血装置、自動輸血検査装置等の機器整備	61億円
移動採血車、献血運搬車等の車両整備	25億円
血液製剤発注システム及び献血推進・予約システムの機能充実 血液事業情報システムのストレージ更改等のソフトウェア整備	30億円

7.収支状況の推移

- 広域事業運営体制当初の平成24～27年度は、収支が悪化傾向にあったが、経営改善の取り組みにより、平成28年度以降は黒字に転じ、安定的な経営を維持している。
- 令和4年度においては、ポストコロナ社会における新しい生活様式に適応した必要血液量の安定確保と広域事業運営体制の強化を最優先課題としつつ、血液製剤の安全性及び品質の更なる向上、事業継続に必要な施設整備及びITシステムの導入等に対する投資を進めながら、安定的な事業運営を維持する。

